

どうする？ 総合

創刊号

単元はどうやって
立ち上げる？

- 総合の学習は楽しい？
- 子どもが本気で取り組む単元づくりをしよう！ — p. 1
- 実践1 横浜市立大岡小学校5年生 — p. 2
- 実践2 横浜市立戸部小学校4年生 — p. 6
- 材を見つけよう！ — p.10
- 先生方の疑問にお答えします — p.11
- 生活科から総合へ — p.12

総合の学習は楽しい？

元横浜市立大岡小学校校長 ^{ただ あつこ}
竹田 惇子

「総合ってすごく楽しい！」「来年度はどんな材にしようか、ワクワクしている」「総合は子どもも大好き、学級づくりの核になっている」というような声がある一方で、「何をしてよいかわからない」「材が決まらないので不安」「70時間もあるなんて多すぎ」「気が重い」なんて声も聞こえてきます。

さて、あなたはどちらの派でしょうか。

「総合的な学習の時間」（以下、「総合」）が創設されて約30年が経過しました。全国の学校では様々な取り組みがなされ、優れた実践も多く見られます。

総合の学びは、探究的な学びです。子ども達が自ら設定した課題解決に向けて探究的に学ぶことで、目指す資質・能力が育まれ、学びに向かう力や、自らの生き方や在り方を考える姿勢も培われます。また、総合の学びを各教科等と関連づけることで、子どもの興味・関心が高まり、双方の学びが活性化するという効果もあります。

総合の学びは、地域とつながる学びです。地域の人や自然、物や事とふれあう具体的な活動が総合には欠かせません。地域と学校がつながることにより地域への関心や愛着が増し、地域で生きる子どもに、生きて働く力を高めるものともなります。

こうした総合のもつよさや魅力が認知される一方で、「教科書や指導書もなくでどうしてよいかわからない」「行事等に使ってしまい、実践は十分にしていない」等の話も聞きます。「材の見つけ方がわからない」「単元はどうやって立ち上げるのか」「子どもの思いはどう生かせばよいのか」「1年間を見通した単元構想が難しい」「学年総合か学級総合か」「途中で計画の変更はしてもよいのか」「子どもに任せるだけでよいのか」「評価はどうするのか」等々、多くの疑問や悩みがありそうです。

本冊子『どうする？総合』では、様々な実践例を取り上げてよさや課題について考えたり、数々の疑問にこたえたりしていきます。そして、総合のよさや魅力、学びの在り方について、ともに考える場としたいと思います。

この創刊号では、「単元はどうやって立ち上げる？」をテーマに取り上げました。総合で一番多く聞かれる課題です。新しい学年が始まる今、多くの教師が悩んでいるところではないでしょうか。単元を立ち上げるために、教師は何をしなければならないか、大切にしなければならぬことは何か、具体的な事例を通して提示していきます。

子ども達の多くは、総合の学習を楽しんでいるのではないのでしょうか。生き生きと学ぶ子どもの姿を多く見てきました。

総合を子ども達とともに楽しみ、学びを創り出していきましょう！その指針となり、一助となれば幸いです。



竹田 惇子

横浜市小学校教諭、同市教育委員会指導主事、同市戸部小学校校長や大岡小学校校長、文部科学省の教育課程部会 生活科・総合的な学習の時間専門部会専門委員などを歴任。光村図書「せいかつ」教科書編集委員。生活科・総合的な学習の講師として多くの学校で活躍中。

子どもが本気で取り組む単元づくりをしよう！

鎌倉女子大学准教授 ^{あいざわあきひろ}
相澤 昭宏

材の選定のポイントは何ですか？

■材の価値を見極めよう！

その材を取り上げて単元化したとき、どんな学びが生まれるのか、以下の視点から材や活動を検討するとよいでしょう。

「活動的価値」

- ・子どもにとって活動自体に魅力があるか。
- ・体験を通した問題解決ができるか。
調べ学習やインターネットで問題解決するのではなく、実際に自分たちが試行錯誤したり繰り返し活動したりしながら、よりよい解決法を見つけていくことができるか。
- ・子どもの追求に耐えられるか（学びの広がりや深まりの可能性があるか）。

「内容的価値」

- ・材の向こうに何が見えるか（子どもは何を学ぶのか）。
- ・学校や地域ならではの特色があるか（この学校だからこその価値・このまちで実践するとどんな学びになるのか）。
例）長野県の学校でそばを材にするのと横浜でそばを材にするのでは、学べる内容が違う。
- ・まち、自分の生活との関係を考えられるか（自分ごと、切実感、問題場面の有無）。

「社会的価値」

- ・本物志向か（「ごっこ」や「まねごと」ではなく、子どもならではの本物）。
- ・子どもの必要感に応じて関わってくれる「人」はいるか。
- ・時代と社会背景、学校の状況をとらえているか。
- ・子どもが本気で活動すると今日的課題につながるか（「環境問題に取り組もう」では子どもは動かない）。

■その他

- ・学年（相応のクオリティを考慮）
- ・経費（予算、教育系論文への応募、企業や行政とのコラボ等）
- ・行政や民間のコンテンツの利用の可能性
- ・時間数【物語（単元）が完結するか。成就感が味わえるか。】

材を決定したらどうしますか？

■単元を構想しましょう！

- ・子どもの活動を入れたウェビングをしましょう。（学習指導要領 総合的な学習の時間 解説 第6章参照）
- ・単元構想とは単元計画ではなく、単元の入り口から出口までの物語を描きましょう。
- ・各小単元は活動を書くのではなく、「問題解決活動のひとまとまり」にしましょう。
- ・まずは、単元構想を図などに表してみましょう。



相澤 昭宏

横浜市小学校教諭、同市教育委員会指導主事、同市小学校校長を経て2021年より現職。光村図書「せいかつ」教科書編集委員。「小学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 総合的な学習の時間編」の作成協力者。『教育課程実践講座 総合的な学習の時間(小学校編・中学校編)』（共著・ぎょうせい）など著書多数。



5年

自然の暮らしを楽しもう！ 大岡里山LABO

横浜市立大岡小学校 増井 雅子



実際の
資料は
こちら

単元構想から立ち上げまで ～先生の頭の中をのぞいてみよう～



今年は5年生の担任になった。3・4年生でものづくり・福祉をテーマに学んできた子どもたちは、自然環境に興味を持つだろう。国語「春の俳句をつくらう」で校庭や大岡川へ出かけてみよう。

小単元①(3時間) 今年の総合を決めよう

①校庭や地域の川へ出かけ、春探しをする。 (国語「春の俳句をつくらう」との関連)

このギザギザの葉っぱはヨモギっていうんだね。いい香り！ヨモギ団子を作って食べてみたい。

見て見て！大岡川に魚が泳いでいるよ！魚とりにしてみたい。



それはいい考えだね！先生も食べてみたい。他に食べられる草はあるのかな？



何の魚だろう？魚とり、楽しそうだね。みんなは他にやってみたいことはある？

私は、まちにどんな動物や植物がいるのか調べてみたい。

じゃあ、今年の総合の時間は自然を楽しむ活動がいいんじゃない？みんなに提案してみようよ！

2 地域の自然環境について調べる

子どもがどのような活動を展開できるか想定するために、大岡川と弘明寺公園周辺の環境や、そこに生息する動植物・水質・食べられる野草・自然遊び等について調査。(書籍・現地・先行実践)

弘明寺公園にはカタバミやミント、フキなどの野草がたくさんあるから、春は野草料理を楽しめるだろう。大岡川にはマハゼ・チチブなどの汽水域を好む生き物がいるから、魚とりや飼育を楽しめるだろう。ハグロトンボをきっかけに、大岡川の水質の変化について考えることができそうだ。



※1

※2



今年の総合の時間は、みんなで地域の生き物について調べたり、食べられる植物を見つけて料理したりして、自然を楽しむ活動をしたんだけど、どうですか？

地域の自然と関わる活動で、どんなことができそうかみんな考えてみようか。



いいね。面白そう。

でも、どんなことをやるの？

4 行政の取組について調べる

横浜市の自然環境の課題と行政の取組について、AIで基本的なことを調べる。大岡川の水質改善のための取組と、緑を保全する取組や思いについて、横浜市みどり環境局に取材。(メール・対面)

大岡川は、条例の制定や下水の整備、企業の積極的な協力、市民団体(大岡川ファンクラブなど)の地道な活動があって水質が改善されたことが分かった。横浜全域で水質はほぼ改善されており、現在の自然環境に関わる大きな課題は緑地保全であることが分かった。行政の取組について知ること、子どもたちは多様な機関が連携して環境保全に取り組んでいることに気づくだろう。

3 市民団体の取組について調べる

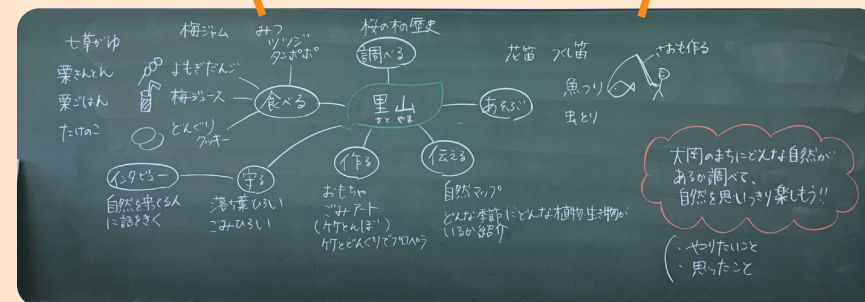
横浜で環境保全に携わる方々の取組や生き方について、大岡川ファンクラブ・弘明寺公園愛護会・よこはま里山研究所NORAに取材。(現地で体験・インタビュー)

NORAの森づくりの活動は、伐木や木の皮むき、薪割りなど様々な作業があって面白かった。子どもたちには、森づくりの楽しさを感じてほしい。そして、ゴミだらけで暗い森だった川井緑地を、人の手を入れることで明るい森にし、25年間管理し続けている取組のよさや、「横浜の緑を未来に残したい」という思いで活動しているNORAの方の思いに触れ、自然のある暮らしを支えてくれている人々がいることに気づいてほしい。

②体験をもとにやってみたいことを を広げ、今年の総合を決める。

単元の立ち上げ

大岡のまちにどんな植物や
生き物がいるか調べて、
自然を楽しむ活動がしたい！



4月3週目

5 ウェビング・ 単元づくり シートの作成 (QRコード参照) 学年研究会で検討 ▶講師の先生から 助言をいただく

4月4週目

6 年間指導計画・ 活動案の作成 (QRコード参照) ▶推進委員会・ 高学年部会・ 学年研究会で検討

POINT

- ✓ 材をリストアップする際に、教科関連を考え最適な学年を選ぶ。
- ✓ まずは教師がやってみる(探究する)。
- ✓ 地域の方、専門家等への取材は4月に行う。
- ✓ 周りの先生方に気軽に相談し、多様な視点から単元を構想する。
- ✓ 対象との「出会い」を仕掛ける。



※1：森 昭彦『食べられる草ハンドブック』(自由国民社)
※2：横浜市みどり環境局環境科学研究所『よこはまのいきものハンドブック』

単元立ち上げ後の活動の展開

小単元②(30時間)

春夏秋冬の自然の暮らしを楽しもう

春

- 校庭・弘明寺公園の生き物調査
- ヨモギ団子作り
- 椎茸の菌コマ打ち
- 野草料理(カタバミのサラダ、タンポポ茶、フキの煮物など)
- 草花遊び

夏

- 大岡川の生き物調査
- 川遊び
- 魚とり、カニ釣り、トンボとり
- 梅ジュース作り

秋

- 水取沢市民の森・弘明寺公園の生き物調査
- 干し柿作り
- どんぐりクッキー作り

冬

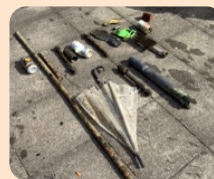
- 大岡川・弘明寺公園の生き物調査
- 野鳥観察
- シュロのほうき作り
- ムクロジ石鹸作り



小単元③(8時間)

大岡川はどうやってきれいになったのだろうか

- 大岡川ファンクラブに取材
- 大岡川ファンクラブの活動に参加、運営のお手伝い
- 川清掃
- 横浜市みどり環境局水・土壌環境課の方に取材
- 水質調査(パックテスト)の実施



小単元④(15時間)

どうしたら横浜の緑を守ることができるだろうか

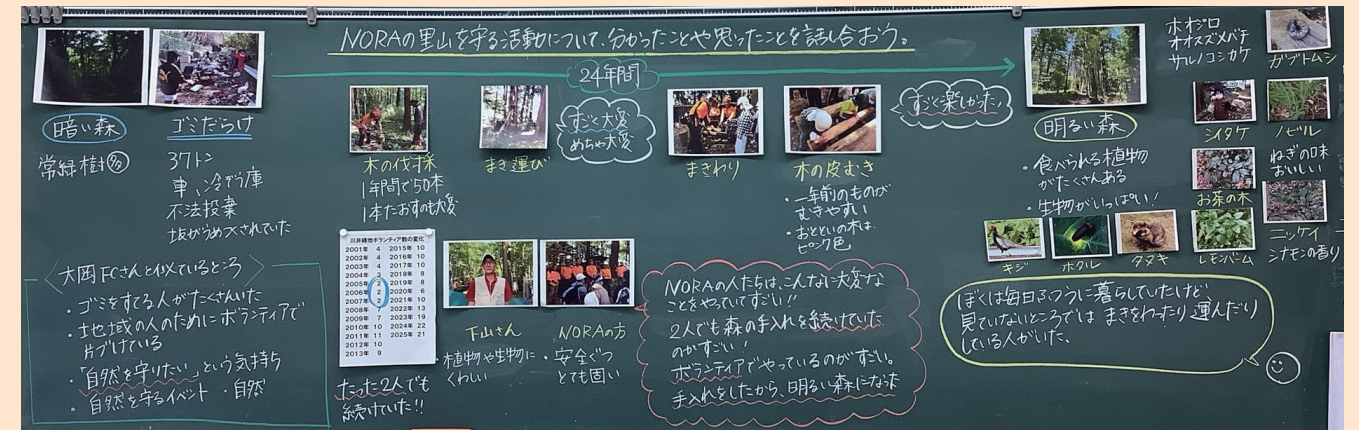
- 横浜市みどり環境局の方に取材



- 川井緑地で森づくり体験



- よこはま里山研究所NORAの方に取材



NORAの皆さんのように、環境保全のための工夫や努力を長い間続けてきてくれた人たちがいるから、今も横浜市には豊かな自然が残っているんだね。身近にある自然は当たり前にあるものではなくて、行政・市民団体・市民が協働して、守り育ててきたものなんだ。私たちも、5年2組特別里山環境課として、自分たちにできることがしたい。これまで見つけた大岡のまちの自然のよさについて、地域の人たちに伝えたいな。



小単元⑤(12時間)

まちの自然のよさを発信しよう

- まちの自然に関する意識調査
- まちの自然ガイドツアー

大岡のまちには、こんなに豊かな自然があったんだね。木の実を食べたり、草花や川で遊んだり、魚を捕まえたり、生活に使えるものを植物から作ったりするのがこんなに楽しいなんて知らなかった。私たちの大好きなまちの自然を守るために、これから大岡川ファンクラブや里山レンジャースの活動に参加するなど、自分にできることを考えて行動したい。そして、自然のある暮らしをずっと楽しんでいきたいな。



10月
~11月

2月
~3月

竹田先生のコメント

環境をテーマにした総合では、調べ学習から入る実践も見られる中、本実践はまさに地に足のついた実践と言えます。まず、国語学習と関連付け、校庭や学校前の川の自然環境に目を向けさせています。校庭のヨモギで団子を作ったり、川で魚釣りをした子ども達は、市街地でもよく見れば豊かな自然があることや、自然と関わる活動の楽しさを実感したことと思います。

ここから、今年の総合は、まちの自然を楽しむ活動がしたいと考えた子ども達によって、単元が立ち上がります。子ども達の主体性を大切にすると同時に、教師は明確なねらいを

もち、深い教材研究に基づいて、子ども達を揺さぶり、子どもの願いを引き出す意図的な仕掛けをしています。この時点で、教師は年間の単元構想を立て、ゴールの子ども姿を明確にしています。

これをベースとして、子どもとともに創り出した学びが、「単元立ち上げ後の活動の展開」に示されています。子ども達が楽しみつつ、本気で学んでいる姿が見えるようです。

教師と子どもがともに単元を立ち上げ、本気の学びを創り出した素晴らしい実践であると思います。

大岡川が昔はゴミだらけでドブ川と言われていて、ハグロトンボが絶滅してしまうほど汚かったと知って驚いた。今は多くの生き物が生息していて、水質もきれいだった。横浜市役所が制度や下水を整備したり、大岡川ファンクラブさんが30年間清掃活動を続けてきたりしたから、きれいな川に戻ったんだね。



4年

目指せ!! 41D・H 風!!

つち だ い き
横浜市立戸部小学校 土田大貴



実際の
資料は
こちら

単元構想から立ち上げまで～先生の頭の中をのぞいてみよう～

小单元①(5時間)

今年の総合を決めよう

- ① 3年生の学びを振り返り、もっとやってみたいことを出し合う。



3年生の学習から、もっとやってみたいことはあるかな？

社会でやった昔遊びが楽しかったよ。もっとやってみたい!!



全然揚がらないよ！どうしてだろう？

風揚げって空に揚がるときれいだし、やってみたいな。



4月
2週目

- 1 探究課題と照らし合わせて、学習材の候補をあげる。

【① 子どもの学びの振り返り】

3年生では、シャボン玉ショーや動物園マップで地域の方との関わりを楽しんでいたな。

【② 探究課題の確認】

今年はものづくりや伝統文化を学びながら、地域の方の思いや取組にも気付いてほしいな。

【③ 学習材のリストアップ】

試しに風で遊んでみたら、作ったり揚げたりと、興味をもって楽しんでいる子どもが多かったな。

- ② 実際に体験してみる。



- 2 書籍やネット、体験や見学から、学習材のウェビングをする。

【① 書籍等での情報収集】

凧っていろいろな種類があるんだな。子どもたちはどれくらい本物に近い凧を作れるんだろう。

【② 見学等での情報収集】

本物の凧って迫力があってすごいな！絵や文字にもこだわりをもって作りそうだな！

【③ 体験等での情報収集】

実際に作ってみると、凧って完成したときや揚がったときの達成感がすてきだな！

【④ 学習材のウェビング】

多様で魅力的な活動や対象がありそうだな！やっぱり凧っていいかも！（QRコード参照）



※ 3

- ③ 体験を振り返り、今年の材や活動を決める。

もっと空高く揚がる凧を作りたい！

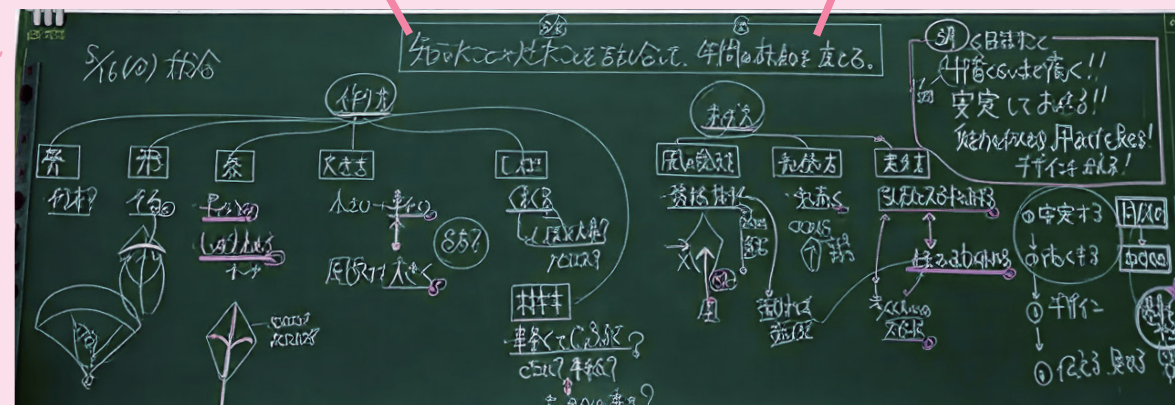


もっといろいろな凧を作りたい！



単元の立ち上げ

今年の総合では、空高く安定して揚がる凧を作りたい！



5月
1週目

- 4 学習材の検討シート(QRコード参照)を作成し、学年やブロックで検討する。

【① 魅力の分析】

- ・作る、揚げる、絵や文字をかくなどの多様な活動とすぐに繰り返し試すことができる環境
- ・凧が完成したときや凧が揚がったときの達成感
- ・凧の歴史的な奥深さ
- ・地域の願いを込めた凧作りと凧揚げによる充実感

【② ゴールの想定】

凧の魅力はもちろん、凧文化の継承を願うSさんの思いや取組にも気付いてほしいな。

【③ 課題の想定】

基本のダイヤ凧作りが上手くいったら、他の種類の凧も作りたいと思うよね。その凧の種類を調べていくうちに、凧の歴史的な背景に興味をもつかな。

- 3 関わりがもてそうな専門家にメール等で連絡し、取材する。

【① 専門家探しと連絡】

書籍の著者や博物館の方、区役所の方、地域の方等から情報を集めて連絡をしよう。

【② 取材と依頼】

4年生だと、ダイヤ凧から作り始めると作りやすくていいんだね。凧って左右対称に作らないと絶対に揚がらないし、正確さや丁寧さが一つの壁になりそうだな。Sさんの凧作りや凧揚げの知識の深さと技術の高さに子どもは驚くだろうな。凧文化の継承を願っているSさんの熱い思いにも気付いてほしいな。よし、Sさんと1年間関わりたい。大まかな日程と回数、内容、謝礼のご相談をしよう。



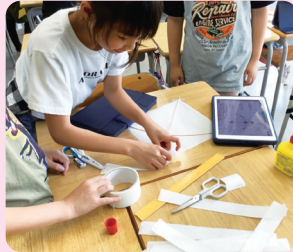
POINT

- ✓ 学習材の決定前に体験活動を取り入れ、子どもの興味関心を探る。
- ✓ 書籍やネット、体験や見学等で学習材への理解を深める。
- ✓ 専門家への取材を通して、学習材の本物の価値を学ぶ。
- ✓ 集めた情報から学習材の魅力を分析する。
- ✓ 課題のつながりとゴールの姿を想定し、単元のイメージをもつ。

単元立ち上げ後の活動の展開

小単元②(16時間)

ダイヤ風を作って揚げよう！



ボンドを使っているけれど、骨(竹ひご)がなかなかつかないな。テープで固定して、揚げたときにとれないようにしよう。

風が揚がる時もあれば、揚がらないときもあるぞ…。みんなで話し合ってみよう。

風って軽くて丈夫な材料だと空高く揚がるんだよ。テープをべたべた貼ると重くなってしまふからダメだよ。



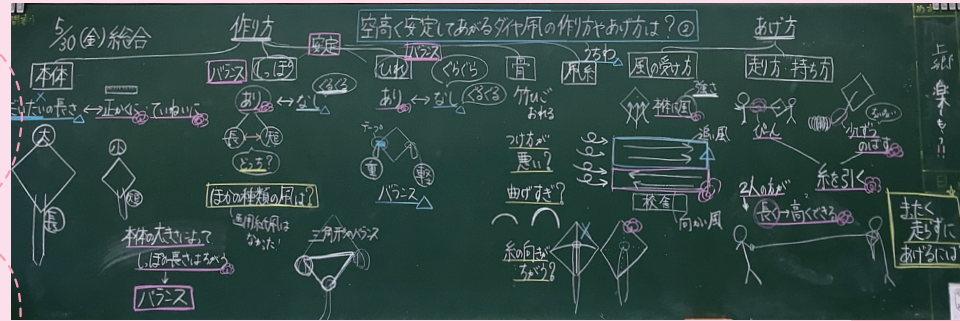
5月
~7月



まずは、基本のダイヤ風をお手本通りに作ろう。まっすぐ線を引いたり、型を作って切ったりするのって結構難しいぞ。



風が吹く方向と反対に向かって走ると空高く揚がったよ。もっと上手な作り方や揚げ方をプロに聞きたいな。

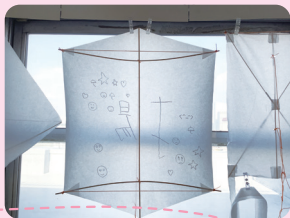
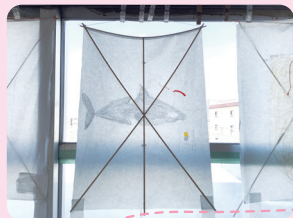


【風の専門家Sさんの話】
とにかく丁寧に、正確に作ることが大事。左右対称になっているか、障子紙を半分に折って確認しましょう。風を揚げるときには、風を背中に受けて風を見ながら糸の長さを調節しましょう。



小単元③(16時間)

いろいろな風を作って揚げよう！



9月
~10月



丁寧に、正確に作っているけれど、なかなか揚がらないな。本物の風の作りを調べるために、風の博物館に行きたいな。

糸目の位置を変えて、風の角度を調節したら、空高く揚がるようになったぞ！嬉しいな！いろいろな風が作れるようになったから、風のイベントを開いて、戸部のまちの人と一緒に風を楽しみたいな！

風に地域の願いを込めて揚げるっていうのがすてきだなって思ったよ。私たちが戸部のまちの願いを知って、風を揚げたいな。



【風の博物館のFさんの話】
みんなが作ったダイヤ風には糸目が1本だけれど、今作っている角風や六角風等には糸目がいくつかあるね。糸目の位置がとても大切だよ。風は、昔から地域の願いを込めて揚げられてきたんだよ。

小単元④(7時間)

自分たちの目指す風を決めよう！



【区役所の方の話】
まちに住んでいる人のつながりを大切にしています。つながりをつくるために、行事を開く等、いろいろな取組をしています。

【地域の方の話】
挨拶、行事の運営等を通して地域のつながりを作っています。信頼関係をつくるのが大事だと思っています。



11月



区役所の方もまちの人も、このまちのつながりをつくるために、自分にできることを見つけて、取り組んでいるんだね。

「戸部のまちのつながりを大切にしたい」という願いを込めて、連風で表現するのはどうかな？



小単元⑤(13時間)

自分たちの願いを込めた風を作ろう！

私は、よく行くカレー屋さんの店主さんが優しく、いつも声をかけてくれるところに繋がりをを感じるよ。だから、その店主さんの笑顔を連風で表したいな。



僕は、下校を見守ってくださる守り隊の方との関わりにつながりを感じるんだ。そのつながりを大切にしたいから、守り隊の方が挨拶をしてくれる様子をかくよ。



2月
~3月

小単元⑥(13時間)

願いを込めて、41風を揚げよう！



風作り体験や風揚げ体験もたくさんの方が来てくれてとても嬉しかったな。風が完成したときや揚がったときにみんなが喜んでいて嬉しかったよ。風の魅力が伝わったってことだと思うな。連風が揚がったときの歓声や一体感がとてもすてきだったな。本当に嬉しかった！



竹田先生のコメント

単元を立ち上げるために、教師は何をすることが大事か、それが示された実践です。

新学年のスタートとともに、教師は子ども達の経験や探究したい学習課題から「風」に焦点を当て、検討に入っています。まず、多様な方法で風についての情報収集をしています。特に、本物の風をみたり、自分で揚げてみたりしていることは、魅力を体感できる良い方法だと思います。

これらの情報をもとにウェビングを行い、活動の可能性や広がりを探ったうえで、専門家と連絡を取っています。専門家への取材は、教材研究を深めるとともに、その人の知識の深さや思いを感じ取ることができ、単元構想にも生きてきま

す。単元立ち上げ前に専門家とつながることの大切さがわかります。

この後、さらに分析を深め、学年などで検討しています。学級総合は教師の協働が欠かせません。魅力の分析、ゴールの子ども姿が想定できたところで、いよいよ単元が立ち上がりました。

「単元立ち上げ後の活動の展開」では、子ども達が風づくりや風揚げを楽しみ、目指す風に向けて工夫を繰り返していることがよくわかります。願いを込めて空高く風を揚げた子どもたちの笑顔や歓声が届いてきます。

材を見つけよう！

元横浜市立大岡小学校校長 竹田 惇子

材は身の回りに豊富にあります。しかし、学習対象の材にするためには、それが学びの価値につながるかどうかを見極めることが重要です。身の回りをじっくり見まわして、探究していけそうな材をリストアップしましょう。そして、「材の選定のポイント」(p. 1『子どもが本気で取り組む単元づくりをしよう!』参照)を参考に、学習対象の材となるか検討しましょう。

横浜市内でこれまでに取り上げられ、子どもの本気の姿が見られた材を紹介します。テーマは例としてあげました。同じ材でも探究の仕方でテーマも変わります。子どもの発達段階を考えて選ぶことも大切です。なお、交流と地域は、すべての材に共通するテーマです。テーマ例に、この2つの視点を加えて見てください。

材	内 容	テーマ例
地場野菜	地元で生産される野菜を農家と交流して栽培し、レシピを開発したり、よさを発信したりする。地産地消をテーマに店やまちの人と交流する。	食 キャリア
郷土カルタ	まちの魅力を調べ、自分たちがとらえたまちのよさをカルタとして表し、学校やまちの人と楽しむ。国語との関連を図る。	情報
写真	まちの魅力を、写真を通して伝える。写真を撮ることを通して、まちのものや人を見つめなおし、再認識する。写真展での交流や写真集の発行が考えられる。	情報 キャリア
和菓子・練り切り	和菓子のよさに気付き、四季やまちのよさを表現する和菓子を作り、お茶会などでまちの人と交流する。	食・キャリア 伝統
紙飛行機	よく飛ぶ紙飛行機を目指して工夫を繰り返す。地域の達人から教えていただいて作り方や飛ばし方を追求し、大会を開くなどして、まちの人と交流する。	ものづくり
お囃子・和太鼓	地域に伝わる和太鼓やお囃子の演奏に挑戦し、まちの行事に参加してその成果を発表する。達人に教えていただいて技を学び、伝統芸能のよさを味わう。	伝統文化 芸能
絵手紙	まちの四季や自然の魅力、学校のよさ等を絵手紙に表し、まちの人や他の学校の友達等と交流する。絵と言葉に込められた思いのやり取りを楽しむ。	情報 学校
草木染め	身の回りの草木を使って染物をする。自然の色を楽しみ、自分の目指す色や染め方に向けて、工夫を繰り返す。作品は地域施設等で展示をする。	自然 ものづくり
動画	学校やまちのよさを、ストップモーション、クレイアニメなどの動画で表す。専門家から技を学び、質を上げる。入学説明会や地域の集まりで上映する。	情報 学校
バーチャル花火	バーチャルで思いや願いを込めた花火を作成し、周年行事や地域、保護者の会等で披露する。花火師、プロの方と関わると学びが深まる。対象学年は高学年。	情報 学校
炭	竹や松ぼっくりなどを使って炭を作る。学校や地域に竹林がある場合は導入がスムーズにできる。炭の効能を添えたプレゼントで交流する。	環境 ものづくり
焼き物	地域の土を入れたオリジナル焼き物を作る。専門家と関わり、製作の過程で出会う様々な課題を解決していく。生活の中で生きる焼き物の魅力を味わう。	ものづくり
ジャム	学校・地域など身近にある果実からジャム作りをする。美味しいジャムにするための工夫を繰り返す。瓶のラベルやレシピを作成するのもよい。	食 ものづくり
〇〇商店街	商店街の活性化を目指し、ポスター、ガイドブック、絵地図などで魅力を伝える。商店主や店の特色等、自分達だからこそ伝えられる情報が大事。	情報 キャリア
ビオトープ	校内の池などに、水生植物を育て、チョウやトンボなど地域の生き物呼び込む。自然環境と生物の関係について追求する。水質管理や維持に注意が必要。	環境 自然
地域情報誌	まちの魅力を、自然や景観、歴史、施設、飲食店など多様な観点から考え、情報誌としてまとめる。まちに住む自分たちだからこそその観点が大事。	情報

〈その他〉
豆腐・パン・壁画・風呂敷・出汁・折り紙・大道芸・落語・〇〇公園・すごろく・手作りクレパス

先生方の疑問に お答えします

鎌倉女子大学准教授 相澤 昭宏

Q1 子どもが夢中になって
取り組む「材」を選ぶ
ポイントは何ですか？

日頃からその材が「学習材」となり得るか、日常生活のなかでアンテナを高くしておきたいですね。
そして材の価値を考えるうえでまずは「活動的価値」(p. 1『材の選定のポイントは何ですか?』参照)を考えたいです。
1年間、子どもが夢中になって繰り返し活動できる楽しさがあるか、教師自身も興味・関心があり子どもと一緒に楽しめるかどうか大切です。

👉キーワード
「楽しくなければ総合ではない!!」

Q3 どのようにして単元を
立ち上げていくのでしょうか？

子どもの興味・関心を把握しておく必要はありますが、材も単元も教師が決めることが必要です。ただし、子どもたちにはそれを教師から示すではありません。子どもたちは自分たちで決定したように進めたいのです。そのためには、話し合いだけではなく、実際に体験や活動をしてみる場面をつくったり、子どもの心の揺れを引き起こすような問題場面を設定したりすることもあります。教師の決めた材や活動に子どもたちをどう出会わせるかをよく考えていくださいね。

👉キーワード
「問題場面の設定と子どもの心の揺れを大切に!」

Q4 全員の子どもを夢中にさせるには
どのようなことに気を付けると
よいのでしょうか？

最初から全員が本気になって取り組んだり、夢中になって活動したりすることはないと思います。また、話し合いや調べ学習ばかりではなかなか本気にならない子どももいます。大切なことは、体験や活動を実際に試してみることで、体験や活動を通すことで、課題が自分ごとになり本気モードにスイッチが入ると思います。

👉キーワード
「learning by doing! (為すことによって学ぶ)」

Q2 教材研究はどのように行くと
よいのでしょうか？

総合の教材研究はとても幅広いです。単元構想をする前に、材そのものについての研究はもちろんのこと、この学校やまちで単元化したときにどのような「ひと・こと・もの」と出会えるか、何を学べるのかを探ります。さらに、児童の学習経験や家庭の実態、学校の状況、予算とその捻出方法、等々も同時に考えていきます。そして単元がスタートしてからも、常に子どもの活動を見通しながらさまざまな情報を集めたり、教師自身もその活動に取り組んでみたりすることもあります。

👉キーワード
「教師自身の世界が広がる教材研究! 楽しみながら!!」

Q5 学級ごとに違う材や
単元でもよいのでしょうか？

学級単元のメリットはたくさんあります。学級で取り組むことで子どもたちの目的や目標の醸成がしやすくなります。そして、活動を進めていく上で機動性も高いので子どもの思いや願いに沿って柔軟に展開できます。また、学級ごとに扱う材や学ぶ内容が違って、育てたい資質・能力は同じであるという共通認識をもって取り組むことで、子どもや保護者にも理解を得られることになります。学年で材を共通にし、活動や内容は学級ごとに違うという方法もありますね。

学級単元と言っても決して学級担任が一人で背負うのではなく、他の先生方とお互いに支え合い、意見交換や情報交換をしながら進めていくので、教師集団のチーム力が上がると実感しています。

なによりも総合的な学習の時間の活動が学級経営の核になると思うのです。

👉キーワード
「学級単元は学級経営の核になり、職員集団のチーム力を高めることに!!」

生活科から総合へ

生活科で培った資質・能力は総合の学びにどのようなつながっていくのでしょうか。
2人の先生に教えていただきましょう。

自分たちでやっていいんだ！

—生活科と共通する子どもの心持ち—

東海大学准教授 ほうらい き し こ
寶來生志子

生活科や総合的な学習の時間を研究している横浜市立大岡小学校に担任で8年、副校長で2年おりました。低学年の生活科では、わくわく感、やってみたいという思いを大切に、「はてなをかいけつ、みんなでかいけつ」を合言葉に、みんなで「はてな」を出し合って解決するとよいことを体感できるようにしていました。

その後、横浜市こども青少年局幼保小連携担当に異動になりました。5年間在籍していましたが、そこで、素敵な保育をしている先生方、子どもたちの姿にたくさん出会いました。校長として現場に戻り、子どもたちと出会いました。とても明るく素直な子どもたちです。ただ、先生の指示することに素直に従っているように思いました。

素敵な園では、「先生、〇〇してもいいですか」という声は、聞こえてきません。先生方の「早くしなさい」など、急かす言葉や怒る声もほとんどありません。ゆったりした時間のなかで子どもたちは遊び込んでいました。廃材コーナーを設けて、子どもたちが好きな時に自由に使えるようにしていました。

こうした経験から校長に赴任するにあたり、自分で考えて自分で選んで自分で行動する、「子どもたちが主役の学校を創りたい」と改めて強く思いました。

まずは、全ての学年で子どもたちが自分の思いや考えを安心して表現できる人間関係を大切にしました。そして、子どもの「やってみたい！」という気持ちを引き出し、それを実現できるよう先生たちが支えていくようにしていきました。

入学した時から、自分が「はてな」と思ったことをクラスみんなで解決していくことが学ぶということだと実感していくと、その後も失敗を恐れずに様々なことに挑戦していく子どもに育っていきます。「自分たちががんばって対象に関わっていけば、必ずよいことが起こるぞ」という手応えが次の行動の意欲になり、学びに向かう力を育んでいくことにつながります。「自分たちでやっていいんだ！」を実感していきました。

1～2年生の子どもたちは、学び方を学んでいる時期だと私は考えます。生活科の学習を中心に、子どもの考えるチャンスを奪わないで先生が支えることが、総合的な学習の時間で大きな力になっていくのではないのでしょうか。



寶來生志子

横浜市小学校教諭、同市こども青少年局担当課長、同市小学校校長を経て、2023年より現職。光村図書「せいかつ」教科書編集委員。
「小学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 生活編」の作成協力者。
著書に、『育ちと学びを豊かにつなぐ 小学1年 スタートカリキュラム&活動アイデア』（共著・明治図書出版）などがある。

生活科と総合的な学習(総合・探究)はどうつながるの？

—「問い？」と「納得！」を発展的に繰り返す

元文教大学教授 しま の みちひろ
嶋野道弘

「あそんで 作って くふうして」の活動です。「わたしは、ふだんのんだりたべたりすると、いつもはすてちゃうものをあつめておいてあそぶと、たのしめることができました。ころがしたり、なげたり、ふったり、ほかにも、つむ、こする、たたくなど、いろんなあそびかたがあります。もっとあそびたいです」

生活科は、子どもの生活から活動を立ち上げ、学んだことを自分の生活にもどして、自立し生活を豊かにしていく創造的な学びです。それは、活動する中で生じる思いや願いを、試行錯誤しながら実現していく行為です。『もっと～。今度は～』というように発展的に繰り返されます。ここで培われる学びの体験や主体性、創造性、学びに向かう力は総合に引き継がれ、実社会や実生活の中から問いを見いだし、自分で課題を立てて本質を探っていく探究的な学びとなっていくます。

「町の自慢は何だろう？」という3年生の総合です。「町にはいろいろな予約があって、町のみんなが考えたり工夫したりして暮らしていることが分かりました。わたしはそれが本当の町の自慢だと思いました。わたしは『本当の町の自慢です』と言えるものができたので、自分も町の人の一人になれたのかなと思いました」

歯医者さんの予約診療や人気のお菓子屋さんの予約販売など、町にある予約に関心を持った子どもたちは“予約探し”を通して学び方やものの考え方を学びました。町の人々の知恵を生かした暮らしぶりを知って「町の自慢」という探求課題の概念を具体化し、本当の意味を突き止め、自己認識を高め、自己の生き方を考えました。

『なんでだろう？』という疑問や不思議を自ら見つけ出し、問いをもち、解決すべきことをつかみ、解決に至る過程をたどれば『なるほど、そうか！』という納得に行き着きます。そもそも人間は生活の中でそれを行っているのです。「問い」と「納得」を発展的に繰り返す行為は、人間の本性であり強みであり、人間の学びや豊かな生活に欠かせないことです。生成AIが発達する中で、生活科と総合・探究の学びは、人間を中心にした人間の強みを育てる教育としての重要性が高まっています。



嶋野道弘

元日本生活科・総合的学習教育学会会長。公立小学校教員、埼玉大学附属小学校教員、埼玉県教育委員会指導主事、文部省小学校課教科調査官、文部科学省主任視学官、文教大学教育学部教授・同大学院教育学研究科長を歴任。光村図書「せいかつ」教科書編集委員。生活科・総合的な学習の時間の創設・啓発に関わり、以来、子どもの学びに基軸を置き、その研究と教育の活性化に向けて取組んでいる。著書に『育て！子どもの学ぶ力ー「総合的な学習の時間」の教育原理』（全国学校給食協会）などがある。

光村図書のお役立ちコンテンツ

■生活の授業のヒントに

光村ポケット「小学校生活」

教材の扱い方や、教科教育に関する話題など、日々の授業づくりに役立つヒントをご紹介します。



■「生活科」教育情報誌

「せいかつ探検隊」

生活科の授業づくりや、低学年の子どもたちの学びに役立つ情報をお届けする冊子です。
こちらからバックナンバーをご覧ください。



■言葉と歩く、光村の教育情報誌

「とことば」

光村図書の新しい情報誌「とことば」。
教室の中と外の世界をつなぐ今日的なテーマを「言葉」を切り口に追いかけます。



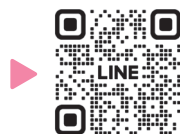
■光村図書 ウェブサイト



■LINE 公式アカウント友だち募集中！



授業づくりに役立つ情報を、いち早くお届けします。



この創刊号では、「総合の時間に何をしようかわからない。単元はどうやって立ち上げたらよいのだろうか」という先生方の悩みをきっかけに、「単元の立ち上げ」について取り上げました。

今後は先生方の声を伺いながら、「単元づくりのポイント」など様々なテーマを取り上げてまいります。

本誌が、先生方のご実践のヒントになれば幸いです。

QRコードは、㈱デンソーウェーブの登録商標です。



光村図書

発行人 吉田直樹
発行所 光村図書出版株式会社
〒141-8675 東京都品川区上大崎2-19-9 電話：03-3493-2111
デザイン mg-okada

教授用資料

本資料は、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」に則って作成したものです。